

第117期 報告書

[平成28年4月1日～平成29年3月31日]

CHEMICAL PRODUCTS

BUILDING & HOUSING MATERIALS

CONSTRUCTION MATERIALS

アイカ工業株式会社

証券コード 4206



CONTENTS

■ 株主の皆様へ	2
■ セグメント別のご案内	3
■ 財務情報	5
連結決算	
連結貸借対照表／連結損益計算書	
連結株主資本等変動計算書／連結キャッシュ・フロー計算書	
単独決算	
貸借対照表／損益計算書	
株主資本等変動計算書	
■ 企業活動のご案内	9
■ 会社の概要	12
■ 株式の状況	13
■ 株主メモ	14

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当社は平成28年10月20日、創立80周年を迎えました。

これもひとえに、株主の皆様をはじめとするステークホルダーの皆様のご愛顧・ご支援の賜物と心より厚くお礼申し上げます。これからも社是である「挑戦と創造」の精神のもと、90周年、100周年に向けて邁進してまいります。

さて、当社グループ第117期（自平成28年4月1日至平成29年3月31日）の営業の概況をご報告申し上げます。

当連結会計年度の当社グループを取り巻く経営環境は、日本国内においては、英国のEU離脱問題や米国の政策転換リスクなどによる為替変動の国内景気への影響が懸念されるなか、全体としては雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調で推移しました。一方、アジア・オセアニア経済は、中国では各種政策効果もあり景気に下げ止まりが見られたものの、インドや一部のアセアン諸国では内需に弱さが見られ、全体としては緩やかな減速が続きました。

国内建設市場におきましては、住宅ローン金利の低下や政府による住宅取得支援策、相続税対策に伴う賃貸住宅の増加などを背景に住宅着工は堅調に推移しました。非住宅建設市場は、店舗などで着工面積が減少しましたが、オフィスや宿泊施設の市場拡大に支えられ全体としては持ち直しの動きが見られました。

このような経営環境の下、当社グループは、医療・介護施設をはじめとする非住宅市場およびリフォームなどの成長分野に対する営業活動の強化、アイカ・アジア・パシフィック・ホールディング社およびその子会社とのシナジーの追求、アジア地域におけるメラミン化粧板販売の強化、機能材料事業の強化などを推進いたしました。

この結果、当連結会計年度の売上高は151,633百万円（前年同期比1.0%増）、営業利益は18,099百万円（同11.8%増）、経常利益は18,374百万円（同12.4%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は11,064百万円（同11.1%増）となりました。

当社は、平成29年4月、新中期経営計画「C&C 2000」を発表いたしました。本計画では、創立90周年（平成39年3月期）に目指すべき姿「アイカ10年ビジョン」の実現に向け、最初の4年間に達成すべき財務目標と基本方針を定めています。具体的には、人口減少・少子化・高齢化に伴う住宅需要の変化や、インフラや建物の老朽化、環境意識のさらなる高まり、平成31年10月に再延期された消費増税前駆け込み需要とその反動減、IoT・AIの技術革新など、事業環境が大きく変化すると捉え、当社グループの強みである「化学」と「デザイン」の力を活用し、豊かな社会の実現に貢献する独創性のある商品をつくり出すことで持続的に成長し、より一層の企業価値向上を目指しています。

株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年6月



代表取締役社長

小野 勇治

化成系セグメント

国内の接着剤系商品は、木工・家具向け汎用接着剤、合板用接着剤が好調に推移したことに加え、2015年9月より連結業績に組み入れたアイカSDKフェノール株式会社が寄与し、売上は前年を上回りました。一方、海外の接着剤系商品においては、アイカ・アジア・パシフィック・ホールディング社の子会社が、アジア太平洋地域における接着剤・繊維板用樹脂の需要を取り込み、販売数量を増やすことができたものの、原材料安による売価低下や為替換算レートの影響により売上は前年を下回りました。その結果、接着剤系商品全体としても売上は前年を下回りました。

建設樹脂系商品は、改修市場への積極的な展開を進めた塗り床材「ジヨリエース」や、HACCP（ハサップ：国際的な食品の衛生管理手法）導入義務化に対応する高耐久塗り床材「アイカピュール」が好調に推移しましたが、新築住宅向けの外装・内装仕上塗材「ジヨリパット」や補修・補強材「ダイナミックレジン」が低迷した結果、売上は前年を下回りました。

非建築分野への取り組みとして注力している機能材料事業につきましては、自動車向け接着剤や有機微粒子が順調に推移し前年を上回りました。

このような結果、売上高は74,881百万円（前年同期比3.1%減）となりました。一方、コストダウンや原材料、燃料の価格低下などにより、営業利益（配賦不能営業費用控除前）は6,233百万円（同14.9%増）となりました。



環境配慮型接着剤
Fフォースター
(F☆☆☆☆)対応
アイカエコエコボンド



塗り床材
aica pur
(アイカピュール)

物件名：門真市立第四中学校給食棟
設計：株式会社相和技術研究所

建築材セグメント

国内市場では、店舗や医療・介護施設などの新築需要が低調に推移した結果、汎用的な化粧板・化粧ボードは低調に推移しました。その中で、学校やオフィスビルなどの改修や、インバウンド需要によるホテルの新築・改修は堅調に推移し、メラミン化粧板周辺領域への展開として注力している粘着剤付化粧フィルム「オルティノ」や不燃ボードは好調に推移しました。加えて、2015年10月より連結業績に組み入れたアイカテック建材株式会社が寄与し、全体として売上は前年を上回りました。

一方、海外市場においては、インドネシアやシンガポールを中心に化粧板の販売量を増やしましたが、為替換算レートの影響により売上は前年を下回りました。

このような結果、売上高は38,454百万円（前年同期比5.5%増）、営業利益（配賦不能営業費用控除前）は8,100百万円（同18.4%増）となりました。



メラミン化粧板

物件名：大名古屋ビルディングオフィスタイル
設計：株式会社三菱地所設計
施工：清水建設株式会社



粘着剤付化粧フィルム

Aityno (オルティノ)

物件名：セブンパーク アリオ柏
事業者：株式会社イトーヨーカ堂
株式会社セブン&アイ・クリエイトリンク
設計：株式会社大林組一級建築士事務所
施工：株式会社大林組東京本店

住器建材セグメント

不燃化粧材「セラール」は、住宅向けキッチンパネル用途、教育施設、公共施設向けの壁用途で好調に推移しました。ポストフォーム・カウンター商品は、戸建住宅や集合住宅向けのキッチン対面カウンター「バリューエッジカウンター」や高級人造石「フィオレストーン」を中心に売上を伸ばすことができました。ドア・インテリア建材は、戸建住宅向け建具全体としては前年を下回りましたが、メラミン化粧板の特性を活かした「メラフュージョンシリーズ」は売上を伸ばすことができました。また、医療・介護施設向け機能引戸「U.D.（ユニバーサルデザイン）コンフォートシリーズ」は医療・介護施設の新築着工減少の影響を受け前年を下回りました。

このような結果、売上高は38,297百万円（前年同期比5.4%増）、営業利益（配賦不能営業費用控除前）は6,387百万円（同6.5%増）となりました。



デザイナーズ・ラミネート不燃化粧材

+WONDER セラール（プラスワンダーセラール）

物件名：金城学院大学 W3棟

設計：株式会社三菱地所設計・金城学院大学生活環境学部環境デザイン学科弓立ゼミ

高級人造石
Fiore Stone
(フィオレストーン)

物件名：ザ・パークハウス 日本橋大伝馬町

施主：三菱地所レジデンス株式会社

施工：株式会社長谷工コーポレーション



アイカテック建材株式会社とのシナジーによる商品 「ルナライト・カラー」「モイス」

当社は、メラミン樹脂やフェノール樹脂といった有機材料を原材料とした内装用建材の分野に強みを持ち、メラミン化粧板で国内トップシェアを誇ります。ヒット商品「セラール」は、メラミン化粧板の意匠性・耐久性・強度を保ちつつ不燃化に成功したことで、住宅のキッチンパネルや医療・介護施設の壁面などでシェアを拡大しています。しかし、有機系の技術のみでは、様々な不燃建材のバリエーションを揃えることに限界がありました。

そこで、平成28年6月、当社の有機系技術とアイカテック建材の無機系技術とのシナジーによる塗装けい酸カルシウム板「ルナライト・カラー」の発売を、また、同年8月、無機系不燃建材「モイス」の発売を開始しました。「モイス」は天然素材のみで造られており、有害物質を含まず土に還すことが出来るサステイナブルな次世代型建材です。

これらにより、「セラール」「オルティノ不燃」「マーレス不燃」をはじめとする当社の不燃建材商品ラインアップに、新たに汎用性の高い塗装けい酸カルシウム板と無機系不燃建材が加わりました。

当社は今後も、不燃建材の商品群を拡充するとともに、アイカテック建材が有する技術とのシナジーにより、新商品開発を進めてまいります。



塗装けい酸カルシウム板
「ルナライト・カラー」



無機系不燃建材「モイス」

連結決算

● 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当連結会計年度 (平成29年3月31日現在)	前連結会計年度 (平成28年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	115,338	103,028
現金および預金	47,646	37,449
受取手形および売掛金	50,549	49,333
たな卸資産	12,150	12,124
繰延税金資産	988	864
その他	4,283	3,498
貸倒引当金	△281	△241
固定資産	49,296	50,405
有形固定資産	30,024	30,472
無形固定資産	3,259	4,965
投資その他の資産	16,012	14,968
投資有価証券	14,510	13,323
繰延税金資産	247	238
その他	1,272	1,440
貸倒引当金	△17	△34
資産合計	164,634	153,434

● 連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当連結会計年度 (平成28年4月1日～ 平成29年3月31日)	前連結会計年度 (平成27年4月1日～ 平成28年3月31日)
売上高	151,633	150,061
売上原価	106,134	108,067
売上総利益	45,499	41,993
販売費および一般管理費	27,399	25,809
営業利益	18,099	16,184
営業外収益	1,110	1,281
営業外費用	836	1,113
経常利益	18,374	16,352
特別利益	96	—
特別損失	268	—
税金等調整前当期純利益	18,201	16,352
法人税、住民税および事業税	6,190	5,501
法人税等調整額	△97	△20
当期純利益	12,108	10,871
非支配株主に帰属する当期純利益	1,044	908
親会社株主に帰属する当期純利益	11,064	9,962

◎記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

科 目	当連結会計年度 (平成29年3月31日現在)	前連結会計年度 (平成28年3月31日現在)
負債の部		
流動負債	38,596	34,644
支払手形および買掛金	21,541	20,850
電子記録債務	4,456	3,982
短期借入金	1,314	513
未払法人税等	3,255	2,394
賞与引当金	1,760	1,693
その他	6,268	5,210
固定負債	6,352	6,289
長期借入金	532	1,043
繰延税金負債	2,721	2,101
退職給付に係る負債	1,190	1,147
その他	1,908	1,997
負債合計	44,949	40,933
純資産の部		
株主資本	108,726	101,776
資本金	9,891	9,891
資本剰余金	13,271	13,271
利益剰余金	87,570	80,618
自己株式	△2,007	△2,005
その他の包括利益累計額	6,172	6,218
その他有価証券評価差額金	4,222	3,027
繰延ヘッジ損益	△9	△4
為替換算調整勘定	1,822	3,092
退職給付に係る調整累計額	137	103
新株予約権	36	36
非支配株主持分	4,749	4,469
純資産合計	119,685	112,501
負債純資産合計	164,634	153,434

◎記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

● 連結株主資本等変動計算書 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額					新株 予約権	非支配 株主持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ損益	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る調整 累計額	その他の 包括利益 累計額合計			
平成28年4月1日残高	9,891	13,271	80,618	△2,005	101,776	3,027	△4	3,092	103	6,218	36	4,469	112,501
連結会計年度中の 変動額													
剰余金の配当			△4,113		△4,113								△4,113
親会社株主に帰属 する当期純利益			11,064		11,064								11,064
自己株式の取得				△1	△1								△1
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					-	1,195	△5	△1,269	33	△45	-	280	234
連結会計年度中の 変動額合計	-	-	6,951	△1	6,949	1,195	△5	△1,269	33	△45	-	280	7,184
平成29年3月31日残高	9,891	13,271	87,570	△2,007	108,726	4,222	△9	1,822	137	6,172	36	4,749	119,685

◎記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

● 連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科目	当連結会計年度 (平成28年4月1日～ 平成29年3月31日)	前連結会計年度 (平成27年4月1日～ 平成28年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	18,331	14,612
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,269	△7,025
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,587	△4,849
現金および現金同等物に係る換算差額	△324	△508
現金および現金同等物の増減額	10,150	2,228
現金および現金同等物の期首残高	37,449	35,220
現金および現金同等物の期末残高	47,622	37,449

◎記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

● 売上高

(単位:百万円)



● 経常利益と親会社株主に帰属する当期純利益

■ 経常利益 ■ 親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:百万円)



単独決算

●貸借対照表

科 目	第117期	第116期
	(平成29年3月31日現在)	(平成28年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	80,305	72,772
現金および預金	32,106	25,031
受取手形および売掛金	38,057	37,218
たな卸資産	5,086	5,171
繰延税金資産	720	651
その他	4,342	4,708
貸倒引当金	△8	△8
固定資産	51,744	50,607
有形固定資産	12,981	12,916
無形固定資産	276	367
投資その他の資産	38,486	37,323
投資有価証券	13,618	12,389
関係会社株式	23,194	23,214
その他	1,678	1,735
貸倒引当金	△4	△15
資産合計	132,050	123,380

●損益計算書

科 目	第117期	第116期
	(平成28年4月1日～平成29年3月31日)	(平成27年4月1日～平成28年3月31日)
売上高	99,536	97,304
売上原価	69,636	69,838
売上総利益	29,899	27,465
販売費および一般管理費	17,644	16,324
営業利益	12,255	11,140
営業外収益	1,299	1,381
営業外費用	292	528
経常利益	13,261	11,993
税引前当期純利益	13,261	11,993
法人税、住民税および事業税	3,885	3,380
法人税等調整額	△23	△16
当期純利益	9,400	8,629

◎記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位:百万円)

科 目	第117期	第116期
	(平成29年3月31日現在)	(平成28年3月31日現在)
負債の部		
流動負債	26,435	24,805
支払手形および買掛金	13,922	14,150
電子記録債務	5,676	5,306
未払法人税等	2,395	1,694
賞与引当金	1,265	1,230
その他	3,175	2,424
固定負債	2,141	1,575
負債合計	28,576	26,380
純資産の部		
株主資本	99,228	93,943
資本金	9,891	9,891
資本剰余金	13,282	13,282
利益剰余金	78,061	72,774
自己株式	△2,007	△2,005
評価・換算差額等	4,208	3,020
その他有価証券評価差額金	4,217	3,024
繰延ヘッジ損益	△9	△4
新株予約権	36	36
純資産合計	103,473	97,000
負債純資産合計	132,050	123,380

◎記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

●株主資本等変動計算書(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等					新株 予約権	純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ損益	評価・換算 差額等合計		
		資本準備金	その他資本 剰余金	利益準備金	その他利益 剰余金(注)							
平成28年4月1日残高	9,891	13,277	4	1,622	71,151	△2,005	93,943	3,024	△4	3,020	36	97,000
事業年度中の変動額												
剰余金の配当					△4,113		△4,113					△4,113
当期純利益					9,400		9,400					9,400
自己株式の取得						△1	△1					△1
株主資本以外の項目の 事業年度中の 変動額(純額)							—	1,193	△4	1,188	—	1,188
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	5,287	△1	5,285	1,193	△4	1,188	—	6,473
平成29年3月31日残高	9,891	13,277	4	1,622	76,438	△2,007	99,228	4,217	△9	4,208	36	103,473

◎記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(注) その他利益剰余金の内訳

(単位:百万円)

	圧縮 積立金	別途 積立金	繰越利益 剰余金	合計
平成28年4月1日残高	290	16,976	53,884	71,151
事業年度中の変動額				
圧縮積立金の取崩	△0		0	—
剰余金の配当			△4,113	△4,113
当期純利益			9,400	9,400
株主資本以外の項目の 事業年度中の 変動額(純額)				—
事業年度中の変動額合計	△0	—	5,287	5,287
平成29年3月31日残高	290	16,976	59,171	76,438

◎記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

●売上高

(単位:百万円)



●経常利益と当期純利益

(単位:百万円)



タイの接着剤・可塑剤製造販売会社の株式を取得するための株式譲受契約を締結

当社100%子会社アイカ・アジア・パシフィック・ホールディング社(以下「AAPH社」)は、平成29年3月、タイの接着剤・樹脂・可塑剤製造販売会社タイ ケミカル コーポレーション社(Thai Chemical Corporation Ltd. 以下「TCC社」)の60%の株式を取得するための株式譲受契約を、三菱商事株式会社との間で締結いたしました。

TCC社は、タイ東部・中部を主要市場とし、繊維板をはじめとする建築・産業用の接着剤、樹脂および可塑剤の製造と販売を展開しています。AAPH社は、バンコクと南部のハチャイに子会社を有しており、TCC社が加わることで、東南アジア最大の繊維板生産国であるタイにおいて、最大の接着剤・樹脂メーカーとなります。

また今後は、TCC社を活用して、タイにおける産業用フェノール樹脂事業ならびに可塑剤事業の展開を図ってまいります。



タイ ケミカル コーポレーション社

名古屋市営地下鉄千種駅「緑のミチクサ(道草+千種)散歩道」へ協賛

名古屋市営地下鉄千種駅では、駅を「ただ通過するだけの場所」から「目的地」にするために、金城学院大学環境デザイン学科の学生たちが提案した“つつい道草したくなる楽しい「緑のミチクサ散歩道」をつくらう”をコンセプトに、平成30年夏までに順次リニューアルされることが計画されました。当社は、空間のデザインに関わるメーカーとして、街や施設を居心地のよい空間にするために何ができるだろう、と常に考え製品を開発しており、今回のリニューアルでは、学生がデザインした世界で1つだけのオリジナル柄を耐久性やメンテナンス性に優れ、地下空間に適したデザインウォールとして製作し、名古屋市交通局に寄付することを決定しました。

名古屋市営地下鉄千種駅「緑のミチクサ散歩道」は、日々の通勤通学で使用する方のひと時の憩いの場とな

るとともに、訪れる観光客を優しく迎え入れ、街や施設を居心地よい空間にする効果が見込まれます。当社は、今後も化学の力で暮らしに彩りを添える提案をしてみたいです。



名古屋市営地下鉄千種駅リニューアルイメージパース

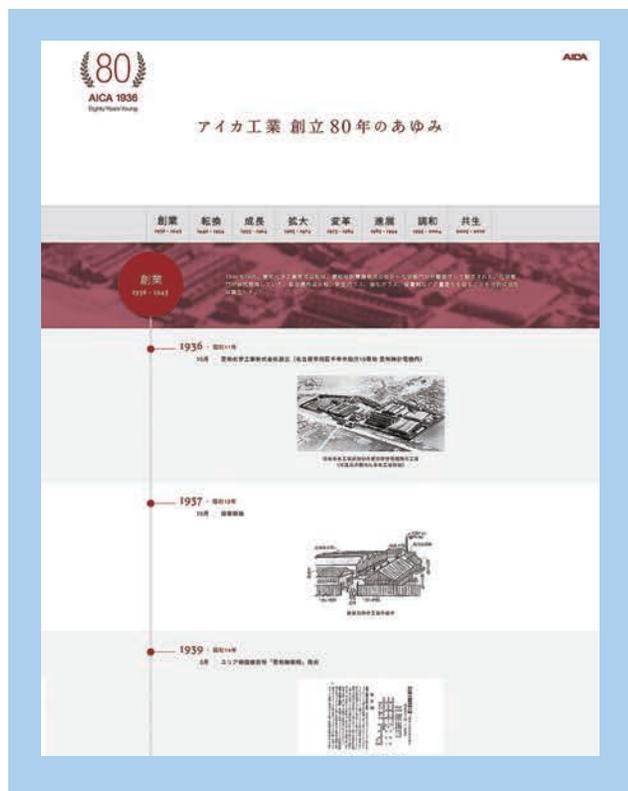
「アイカ工業80年史」の刊行とテレビコマーシャルの放映

当社は、株主の皆様をはじめとするステークホルダーの皆様を支えられ、平成28年10月20日、創立80周年を迎えました。「アイカ工業80年史」を刊行し、ホームページにおいて、「アイカ工業 創立80年のあゆみ」を掲載しております。

また、テレビコマーシャル「AICA'S WORKS」編を関東・東海地方で放映するとともに、交通広告（JR東日本「トレインビジョン」、渋谷スクランブル交差点「渋谷マルチ大型ビジョン」、名古屋市営地下鉄名古屋駅・栄駅「チカビジョン」など）やWEB広告（YouTube「TrueView」）など、様々な媒体を活用し、放映いたしました。

(1)「アイカ工業80年史」の刊行

「アイカ工業80年史」は、「見ていただく」社史をコンセプトとし、80年の歩みを単に記録するだけでなく、企業文化や風土、会社の真髄を後世に伝えることを念頭に編纂いたしました。



アイカ工業 創立80年のあゆみ(当社ホームページ <http://www.aica.co.jp/aica80th/>)

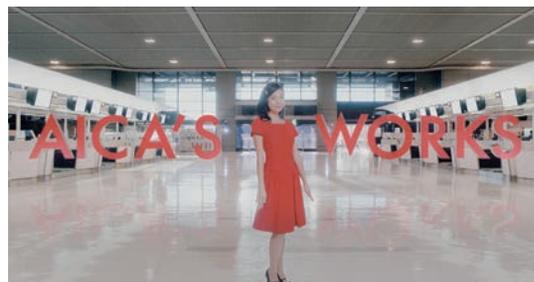
(2)テレビコマーシャル「AICA'S WORKS」

「AICA'S WORKS」のコンセプトは次のとおりです。

- ①当社商品が採用された施工例を紹介、個々の商品ではなく建築物そのものにフォーカスをあてることで“空間を創造する会社”のイメージを醸成しています。

場所	商品
成田国際空港	カウンター
東京理科大学葛飾キャンパス	メラミン化粧板
ルーセントアベニュー	セラール
みなとみらいグランドセントラルタワー	オルティノ
東京スカイツリー	セルサス
エクシブ有馬離宮	ジョリパット

- ②従来、テレビコマーシャルソングとして使用してまいりました楽曲「愛の水中花」(五木寛之作詞・小松原まさし作曲)を“ビッグバンドジャズ”アレンジし、ナビゲーターには坂本三佳(さかもと みか)さんを起用しました。坂本さんの、華やかかつ落ち着いた印象と、テレビ番組で海外を舞台にレポーターを務めていることが、意匠力・海外展開を強化する当社のイメージと合致しました。



アイカ工業テレビコマーシャル「AICA'S WORKS」

新中期経営計画「C&C 2000」の策定

当社は創立90周年(平成39年3月期)に目指すべき姿「アイカ10年ビジョン」を描き、その実現へのロードマップの最初の4年間に達成すべき財務目標と基本方針を、新中期経営計画「C&C 2000」として策定し、平成29年4月に発表いたしました。



(1)財務目標

項目	平成29年3月期(実績)	平成33年3月期(計画)
連結売上高	1,516億円	2,000億円
連結経常利益	183億円	220億円
ROE	9.9%	10%以上
海外売上比率	30.8%	35%以上

(2)基本方針

①3つの成長ドライブの追及と実現

- a) AS商品※¹群の拡充による国内基幹事業の成長持続
- b) 次世代を担う注力分野の育成・投資(非建設向け分野、建材未開拓分野)
- c) ジャパンテクノロジーの海外展開

②成長を支える経営基盤強化

- a) C&C活動※²を通じた一人ひとりの成長
- b) QEOマネジメント※³とIT基盤刷新によるCS・ES※⁴向上
- c) コンプライアンスの遵守

※¹ AS商品 : AICA Solution商品の略。様々な社会課題(インフラ老朽化・高齢化・環境・安全・人手不足など)を解決する商品

※² C&C活動 : Challenge & Creation活動の略。挑戦と創造の精神のもと、製品・サービス・仕事などの質の管理・改善を行う小集団活動。1977年から行っている

※³ QEOマネジメント : 品質(Quality)・環境(Environment)・労働安全衛生(Occupation health and safety)、三位一体のマネジメントシステム

※⁴ CS-ES : CSは顧客満足度、ESは従業員満足度を表す

(3)投資計画

持続的な成長を実現するために、既存事業の拡大・維持投資に加えM&Aなどによる新たな事業投資も積極的に進めます。設備投資・事業投資を合わせて、4年間で400億円を目処に投資を行います。新規事業のM&Aについては、海外の化成系・化粧板・機能材料事業、国内の補修補強・壁面材事業などを中心に、技術・販路・生産力を拡大するシナジーを追及してまいります。

(4)配当方針

当社は、株主の皆様への利益還元と会社の持続的な成長を実現するため、各期の連結業績、配当性向および内部留保を総合的に勘案したうえで配当を行ってまいります。本中期経営計画においては連結配当性向を、従来の「30%以上」から、より利益還元を重点を置いた「50%を目処」に変更します。内部留保資金の使途については、既存コア事業拡大のための設備投資や、M&Aなど将来の企業価値を高めるための投資に優先的に活用するなど、中長期的な視点で投資効率を考え行なってまいります。

プロフィール

- 社名 アイカ工業株式会社
- 本社 愛知県清須市西堀江2288番地
- 電話 052(409)8000(代表)
- 設立 昭和11年10月20日
- 資本金 98億9,170万円
- 事業所

[生産拠点] 本社工場(愛知県) 甚目寺工場(愛知県)

福島工場(福島県) 広島工場(広島県)

茨城工場(茨城県) 丹波工場(兵庫県)

[開発拠点] 第一R&Dセンター(兵庫県)

第二R&Dセンター(愛知県、茨城県)

[営業拠点] 札幌支店 仙台支店 盛岡営業所

東京支社 埼玉支店 横浜支店

千葉支店 北関東支店 宇都宮営業所

新潟営業所 名古屋支店 静岡支店

金沢支店 大阪支店 神戸支店

京都営業所 広島支店

四国支店 福岡支店 鹿児島支店

■連結子会社

- [会社名] アイカインテリア工業株式会社(愛知県)
- アイカハリマ工業株式会社(兵庫県)
- 西東京ケミックス株式会社(東京都)
- アイカSDKフェノール株式会社(群馬県)
- アイカテック建材株式会社(東京都)
- アイカインドネシア社(インドネシア)
- テクノウッドインドネシア社(インドネシア)
- 昆山愛克樹脂有限公司(中国)
- 瀋陽愛克浩博化工有限公司(中国)
- 愛克樹脂貿易(上海)有限公司(中国)
- アイカ・ラミネーツ・インディア社(インド)
- アイカベトナム社(ベトナム)
- アイカ・アジア・パシフィック・ホールディング社(シンガポール)

■主要製品

[化成品セグメント]

外装・内装仕上塗材、塗り床材、各種接着剤、有機微粒子、他

[建築建材セグメント]

メラミン化粧板、化粧合板、不燃化粧材、不燃建材、
カウンター・ポストフォーム、建具・インテリア建材、他

(セグメント変更のお知らせ)

当社は、平成29年3月期まで、「化成品セグメント」「建築建材セグメント」「住器建材セグメント」の3セグメントにて業績を開示してまいりましたが、「建築建材セグメント」「住器建材セグメント」につきましては、ボーダレスな商品群が増加傾向にあることから、これらを統合し、「建築建材セグメント」とすることいたしました。したがって、当社は、平成30年3月期より、「化成品セグメント」「建築建材セグメント」の2セグメントにて業績を開示いたします。

取締役・監査役および執行役員

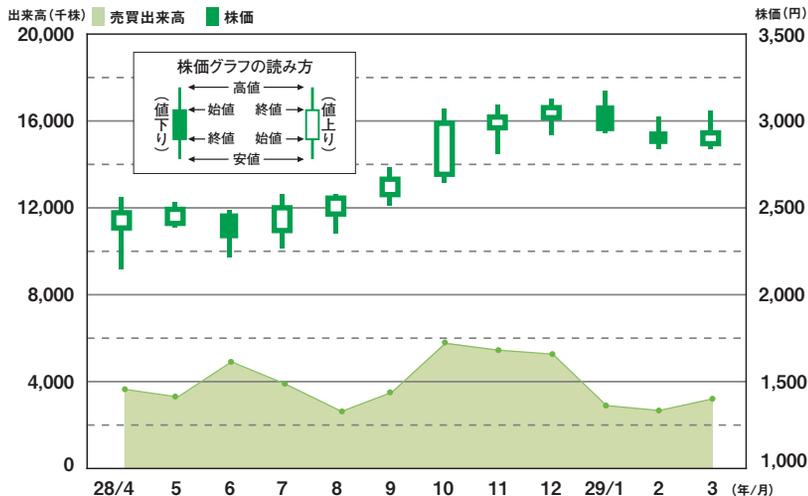
- [代表取締役社長] 小野 勇 治
- [常務取締役] 百々 聡
- [常務取締役] 岩瀬 幸 廣
- [常務取締役] 大村 信 幸
- [取締役] 小瀬村 久
- [取締役] 森 良 二
- [取締役] 伊 東 善 光
- ◎[取締役] 小 倉 健 二
- ◎[取締役] 花 村 淑 郁
- [常勤監査役] 岩 田 照 徳
- [常勤監査役] 森 永 博 之
- [監査役] 松 浦 洋
- [監査役] 加 藤 正 和
- [上席執行役員] Francis Chan (フランシス チャン)
- [上席執行役員] 堀 田 益 之
- [上席執行役員] 岩 塚 祐 二
- [上席執行役員] 倉 本 寛 直
- [上席執行役員] 木 場 健 夫
- [執行役員] Chew Teck Liong (チュー テクリョン)
- [執行役員] 加 藤 義 昭
- [執行役員] 石 井 直 美
- [執行役員] 天 野 利 通
- [執行役員] 吉 村 利 康
- [執行役員] 海老原 健治
- [執行役員] 乾 功 一 郎

(注)◎印は社外取締役、○印は社外監査役であります。

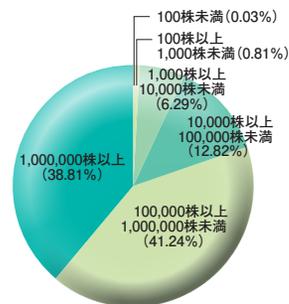
● 発行済株式の総数…67,590,664株

● 株主数…5,085名

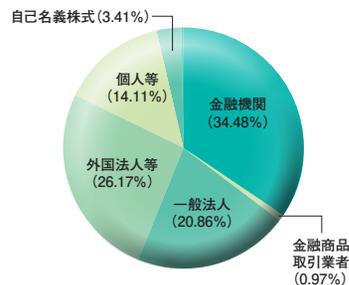
株価・売買出来高の推移(東京証券取引所)



[所有株数別株式分布状況]



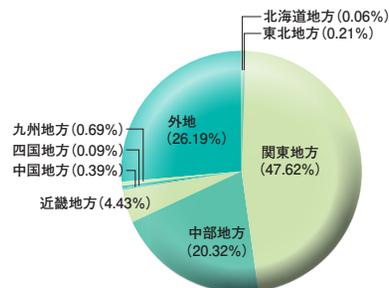
[所有者別株式分布状況]



大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,430	6.79
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,812	4.31
アイカ工業取引先持株会	2,048	3.14
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	1,635	2.50
アイカ工業株式保有会	1,602	2.45
GOLDMAN, SACHS & CO.REG	1,375	2.11
住友生命保険相互会社	1,318	2.02
JP MORGAN CHASE BANK 385174	1,305	2.00
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,300	1.99
大日本印刷株式会社	1,293	1.98

[地域別株式分布状況]



※当社は、自己株式2,303千株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。
 持株比率は、自己株式2,303千株を控除して計算しております。

株主メモ

■事業年度	4月1日～翌年3月31日
■基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
■定時株主総会	毎年6月
■株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
■特別口座管理機関	
■同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711(通話料無料)
■上場証券取引所	東京・名古屋
■公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 公告掲載URL http://www.aica.co.jp/

(ご注意)

- 1.株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に口座をお持ちの株主様の各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。

【株式に関するお手続きについて】

●特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
<ul style="list-style-type: none"> ●特別口座から一般口座への振替請求 ●単元未満株式の買取(買増)請求 ●住所・氏名等のご変更 ●特別口座の残高照会 ●配当金の受領方法の指定※ 	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711(通話料無料)
<ul style="list-style-type: none"> ●郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ●支払期間経過後の配当金に関するご照会 ●株式事務に関する一般的なお問合せ 	株主名簿管理人	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[手続き書類のご請求方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479(通話料無料) ●インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufg.jp/daikou/ </div>

※特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

●証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
<ul style="list-style-type: none"> ●郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ●支払期間経過後の配当金に関するご照会 ●株式事務に関する一般的なお問合せ 	株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711(通話料無料)
●上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	

AICA

カガクとデザインで面白いこと



地球温暖化防止活動の一環として、この印刷物を作成する際に排出されたCO₂は、カーボンフリーコンサルティング株式会社を通じ、環境省で認定された排出権(宮城県米川生産森林組合有林間伐促進森林吸収プロジェクト)によりカーボンオフセットされております。

